

はたらきかた 改革通信2025



02 2025-10-20

☆働き方改革シェアミーティング#02を行いました

9月に開催された「第2回働き方改革シェアミーティング」では、「PTAとの関係の再構築」をテーマに、PTA連合会長と教育長が対談を行いました。PTAの現状や課題、学校・地域との連携、働き方改革の視点を交えながら、今後のPTAの在り方について率直な意見を交わし、学校と地域が子どもを支える新たな関係性を模索する機会となりました。



■武田教育長×城村PTA連合会長対談

「学校・保護者・地域の新しい関係 ～働き方改革で問い直すPTAのカタチ～」



【教育の本質と現場支援】

「教育は先生と子どもの間にあるもの。先生が元気に働ける環境づくりが最優先。教育委員会は、現場の先生に“勇気と元気”を届ける存在でありたい。」



【PTAの役割と個人の経験】

「PTAは“義務”ではなく“権利”。地域とのつながりを得られる貴重な場。制度疲労はあるが、やれる人がやれるときにやれることを基本にすべき。」



【PTAの課題と構造的な問題】

「PTAは本来、すべての子どもを支える仕組みだったはず。しかし、慣習が制度化し、“せねばならない”文化が定着してしまった。違和感を持つ人が排除される構造は、見直すべき。」



【学校と保護者の関係性】

「学校は家庭に干渉しすぎ、保護者は学校に依存しすぎた歴史がある。今こそ、子育てのパートナーとして、互いの役割を再確認し、対話を重ねるべき。」



【PTAの再定義と柔軟な運営】

「PTAは“安心して休める組織”であるべき。行事数を減らしても、関わる負担が変わらなければ意味がない。地域文化としてのPTAを育てることで、先生が変わっても学校の価値は継続できる。」



【制度の見直しと未来の展望】

「PTAの目的をシンプルに。“学校行事を支える”など明確な定義が必要。強力なリーダーによる改革ではなく、対話による文化づくりが持続可能な学校改革につながる。」



【コミュニティ・スクールとの接続】

「PTAは保護者と教師の集まり。地域の人が入れない構造は時代に合っていない。コミュニティ・スクールとの統合も、今後の選択肢として有効。」

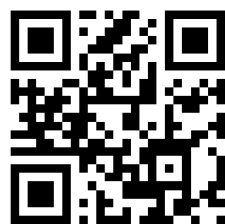


【信州教育のよさ】

「信州教育のよさは、それぞれの学校やそれぞれの先生が（よい意味で）好き勝手やってきたことだと思う。各学校や各地域でこういうことを大事にしたいということを考えていくことが大切ではないか。」

【「PTAとの関係の再構築」対談まとめ】

- PTAの目的は「何のために何をするか」を明確かつシンプルに。
- 保護者の多様な状況を尊重し、無理のない参加を可能にする仕組みが必要。
- 前例踏襲や強制的な関与から脱却し、「安心して休めるPTA」へ。
- 適法性・適正性の観点から、入退会・個人情報・契約などの整備が重要。
- PTA活動のスリム化・DX化で柔軟な運営を。
- PTAから地域を巻き込む「コミュニティスクール」への移行も選択肢。
- 学校と保護者は子育てのパートナー。対話を重ねることが改革のカギ。



対談はこちらから
ご覧いただけます

■好事例の紹介(塩尻市立塩尻西小学校の取組)

職員研修やアンケートを通じて自校の課題を分析し、教育の質の向上を目的とした働き方改革の取組を、伊藤尊夫校長先生にご発表いただきました。

1 時間の見直しとその効果

- 朝の活動や清掃時間の短縮、ドリル廃止により、毎日30分早い下校を実現。
- 教職員の退勤時間も短縮され、主体的な時間の確保が可能に。

2 地域との協働「西の大人」

- 教職員・保護者・地域住民を「西の大人」とし、子どもを支える体制を構築。
- 「おはよう先生」活動などで、地域の大人が登校時に子どもたちと関わる機会を創出。

4 PTA改革と地域参画

- PTAは「本部」と「校外指導部」のみに再編し、参加は「できる人ができるときに」。
- PTAだよりで「お願い」と「感謝」を丁寧に伝え、関係性を再構築。
- 土曜参観は「西の大人の学校」として講座を開催。保護者・地域と語り合う場を提供。

5 今後の課題と展望

- 改革が本当に子どものためになっているかを継続的に検証。
- チャレンジタイムの充実と持続可能な仕組みづくり。
- 「西の大人」の輪を広げ、地域全体で子どもを育てる学校づくりを目指す。

3 「チャレンジタイム」と「西小ライブ」

- 子どもが自主的に学びや活動に挑戦する「チャレンジタイム」を放課後の30分で実施。
- 地域の大人も参加し、カードゲームやダンスなど多様な体験を提供。
- 休み時間に子どもや地域の大人が自由に表現できる「西小ライブ」の実現。

■アドバイザー 信州大学 荒井先生より



【PTAの制度について】
「適法化」と「適正化」の視点で改善が必要。

【無理のない参加を】
保護者の置かれている環境の多様さや違いを認める視点を。

【目的の明確化】
明確な目的は、活動の具体化につながる。逆に、抽象的な目的は活動の負担増に。

【柔軟なかかわりを】
子どもへの多様な対応と同様に、保護者にも柔軟なかかわりを。

【PTAの役割】
「行事を支える」「先生と仲良くなるなど」現場に応じた定義が可能。

【学びの「新しい当たり前」を】
従来の「当たり前」に対する違和感や困り感を共有する場の設定が重要。

参加された方より



「できる人ができるときにできること」「安心して休めるPTA」などの言葉が印象的だった
 PTAにおけるPとTの非対称性をほぐし、日頃から「仲良くなる」場として機能するようになれば、保護者と向き合うことをストレスと感じる教職員は減るのでは
 改革にはエネルギーが必要だが、子どもたちの幸せのために前向きに取り組みたいという思いが強まった

☆「子どもの学びをトコトン支える県民の会」共同宣言



「子どもの学びをトコトン支える県民の会」が開催され、知事や市町村長など多様な立場の参加者が、学校現場の業務実態について意見交換を行いました。
 第1回会議では、中央教育審議会の「学校・教師が担う業務の3分類」に基づき、学校業務の棚卸しを実施。
 第2回会議では、業務負担軽減について協議し、「子どもの学びをトコトン支える共同宣言」ポスターを作成しました。
 このポスターは、先生が子どもと向き合う時間を確保するために活用され、県教育委員会のホームページからダウンロード可能です。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku02/kenminnnokai.html>

【第3回働き方改革シェアミーティング（オンライン）のご案内】
 日時： 10月23日（木）10:10～12:00
 テーマ： 「学校業務の効率化」
 参加方法： Web会議システムZoomを用いたオンラインミーティング
 Zoom ID: 881 0396 0335 パスコード: 1023

当日の参加
大歓迎！



【発行】
 長野県教育委員会事務局義務教育課
 （担当：荒井、武内）
 電話：026-235-7426
 Mail: gimukyo@pref.nagano.lg.jp

学校の働き方改革等に関する情報はこちら

長野県 教職員情報

